あらた同窓會

平成26年 春季号
平成26年3月25日発行
鹿児島大学農学部
あらた同窓会報
電　　話 099-285-8537
振替口座 02010-2-876

平成25年度会費納付のお願い

（会計年度は平成25年10月1日から26年9月30日です）

本会の運営費は、主に会員が納付する年会費と新入会員の入会金などで賄われています。

近年、会費収入額に明確な漸減傾向が認められ、この３年間は一般会計の赤字を基金特別会計から補って事業を実施しています。赤字の主な要因は会費納付者数の大きな減少と納付免除者の増加であります。

本会は、農学部と同窓会の近況、地域支部会やクラス会の情報などを会員にお伝えするとともに、会員相互の交流と親睦を図るための事業ならびに母校との連携・協力事業を実施しています。これらの事業を継続するために事務局は運営の再生に一生懸命努力して参ります。

これまでの100年間で築き上げた「あらたの輝かしい伝統」を次世代へと伝承して行くのがわれわれ現役世代の責務と考えます。

同窓会活動への積極的な参加と本会の再生にご協力ください。

年会費は2,000円です。同封の郵便振込用紙をご利用下さい。

事務局の業務日と連絡

事務局の業務：毎週月曜、水曜及び金曜日の10時から16時まで
住所：890-0065 鹿児島市郡元１－21－24
鹿児島大学農学部あらた同窓会
Tel・Fax：099－285－8537
e-mail：aratakai@mc2.seikyou.ne.jp

目　　次

会長挨拶…… 前田　芳實 …（2）
退職される恩師
赴任した当時からの回想…… 八木　史郎 …（3）
さつまの国に入る　－昭和53年赴任当時の思い出－…… 菅沼　俊彦 …（3）
元気な農学部を経験し、更に目指して！…… 松尾　友明 …（4）
焼酎学講座黎明期の想い出…… 鮫島　吉廣 …（5）
退官にあたって…… 伊藤　　清 …（6）
森林研究を振り返る…… 米田　　健 …（7）
乾燥地探検…… 望月　博昭 …（7）
定年を迎えて；何ができ、何ができなかったか…… 岡本　嘉六 …（8）
講演録…… 橋本　文雄 …（10）
支部便り
広島あらた会…… 平野　朝彦 …（11）
近畿あらた会…… 内田　　昭 …（11）
長崎あらた会…… 森永　鉄美 …（12）
東海あらた会…… 秋吉　輝夫 …（12）
クラス会･グループ便り
育種学教室交友会…… 山下　修司 …（13）
農学部林学科　Ｆ31同窓会…… 岩﨑　健生 …（14）
農学科32年卒業（卒業55周年記念）同窓会…… 築島　敬一 …（15）
学生便り
生物生産学科…… 大江　佑季 …（16）
生物資源化学科…… 岩切　　駿 …（16）
生物環境学科…… 和田　大祐 …（17）
獣医学科…… 天方　聡志 …（17）
恩師･同窓のお慶び　並びに訃報 ……（18）
本部便り…… 林　　満 …（20）
役員名簿……（21）
会計報告……（22）
鹿児島大学農学部あらた同窓会会則……（24）
編集後記…… 樗木　直也 …（裏表紙裏）

表紙：磯海岸からの桜島

ご挨拶

あらた同窓会会長
前田　芳實

このたび、あらた同窓会の会長をお引き受けする事になりました前田芳實です。よろしくお願い申し上げます。私は、1963年、旧畜産学科の第１回生として入学し、1969年に大学院修士課程を修了しました。在学当時は、高度経済成長の真っただ中で、農業の機械化や果樹、園芸、畜産の普及拡大を柱にした“農業構造の改善と国民の食生活の改善と欧風化”が国策として押し進められた時代でありました。大学院修了と共に、農学部での教育・研究に携わる機会を戴き、学生達と充実した日々を送ることができました。さらに最近の４年間は鹿児島大学の研究担当理事として大学の経営に携わって参りました。農学部在職中に、学部創立75周年と100周年の２つの記念事業ならびに玉利喜造生誕150年の記念事業を経験し、いずれもあらた同窓会と農学部との共催事業として、盛大に催されたことを思い出しています。

あらた同窓会は、玉利喜造先生の建学の精神と鹿児島高等農林専門学校の誇りを土台にした強い愛校心が受け継がれています。この様な歴史と伝統に輝くあらた同窓会ですので、新たな時代の中で、大学同窓会としての役割を果たし、新しい歴史を刻む事ができる様に微力ながら尽力致したいと存じます。

あらた同窓会には、会員相互の親睦、母校との連携、ならびに社会貢献などの役割があろうかと思います。会員相互の親睦は、会員の消息を正確に把握する事から始まり、名簿の充実、機関誌の発行、同窓会各支部との情報交換や支部活動の支援などがあります。同窓会の持続性は特に若い世代の皆さんの力と協力が必要であり、その為には、在学中から、同窓会とのつながりを育てることが大切なことと思います。

同窓会にとりまして、母校の発展は一番の喜びであり、鹿児島大学ならびに農学部が、教育、研究、社会貢献において、高い評価を受けることは、私達の誇りでもあります。母校が、時代を担う優れた人材を育成し、イノベーションにつながる研究成果を生み出す事を期待して、母校の発展を応援したいと思います。

今世紀半ばには地球人口が90億人に達することが予想され、食料生産は益々その重要性を増し、農学分野の教育・研究の役割は一段と大きくなります。また、我が国の超高齢化社会の到来は、医療福祉の充実と共に、健康や生き甲斐、世代間の相互支援、地域コミュニテイー力の強化など、成熟社会の新たなシステム作りが求められています。このような環境の変化の中で、同窓会会員の皆様が培った知識や技術を生かし、それぞれのお立場でご活躍されますことをお祈り致します。

2013年３月

退職される恩師

「赴任した当時からの回想」

生物資源化学科
生命機能化学講座
生分子機能学研究室
八　木　史　郎

小生が初めてかごしまへ来たのが昭和52年１月16日であった。空港から10号線沿いにバスで鹿児島市内に入ったが、印象は灰のせいで南国なのに明るくないなという感じであった。灰が降る事は水産学部出身の人が同じ研究室にいたので話は聞いてはいたものの実感はまた別のものであった。

来る前の宇治の研究室では、近藤金助先生（京都大学の農学部創設の頃の先生）が助教授であった頃にその先生より研究論文の多い人（西田孝太郎先生）が高農から大学院生として来られて、近藤先生は指導に気を引き締めて頑張られたということを恩師の森田雄平先生から聞いていたが、まさか自分が、西田先生がおられたその研究室に行く事になるとは思ってもみなかった。

生物化学および栄養化学研究室の小林 昭先生が昭和51年のクリスマスの頃に研究室に来られて、しばらくして教授室に呼ばれて鹿児島大学の農学部に助手のポストが有るそうですが行きませんかという話があった。聞いてから２－３日のうちに返事を下さいということで急遽鹿児島行きを決めた。今思えば当時は公募もなくて人のつながりでポストが決まっていた時代であった。しかし、３月ぐらいに赴任すれば良いのかと思えば、卒論の指導もして欲しいので早く来て下さいという事で、決めてから３週間程で赴任した。ずいぶん回りの人たちに迷惑をかけてしまった。また学位申請をしていなかったので京都との間を行ったり来たりして翌年７月に学位を受理される事になった。

赴任した年の５月に剣道部へ練習に行って左足アキレス腱を断裂してしまった。回りの先生からは笑われたり、からかわれたりして研究室の小林先生は憮然たる表情であったことを今も忘れる事が出来ない。個人的に練習、準備をして行ったつもりであったが準備期間が足りなかったのが原因だと思われる。倒れた後、アキレス腱のところを抑えたら凹んだままだったので、ああ切れたかのかと言う程度の感覚であったが、以前に、自転車でブロック塀にたたきつけられて大けがしたことがあったので、アキレス腱ぐらい運動をしたことがある人だったら誰でも切ることがあるという気持ちであったが、周囲はそうではなかった。この在職期間中でも、E先生をはじめアキレス腱を断裂された先生は何人もおられたがいかんせん赴任して間がなかった。ひどい先生はエイヤとやったら左足を骨折してしまったと無茶苦茶なことをいいふらす始末であった。しかし小生を揶揄した教授の先生も今はすべて鬼籍に入られて寂しくなってしまった。

来た時に初心忘れずという気持ちでスタートしたはずであったが、その後その気持ちを維持できたかというと必ずしもそうではなく、また時々の初心を忘れないようにしたいと思っていたけれども時間をへて忙しさに追われるようになってからはそれも忘れがちになり36年を経てしまった。

その間いくつか大きな変わり目があった、小林 昭先生が亡くなられた後の５年間、ミシガン大学での２年弱、平成２、９年の学部改組、その後の８年間の分子生物学研究室での一人体制、再び生分子機能学研究室へ移動した事などに節目があった。鹿児島へ来た頃はこちらの学生さんは純朴で…と言われたものであったがそれは遠い昔の話で、今は都会も田舎も同じようなものではないかという気がするこの頃である。世の中も変わりPCの発達や機器の発達で少々取り残されるような気になって来た感じもするのでちょうど引き際なのかもしれない。

末筆ですが在任期間中お世話になった皆様方に厚く御礼を申し上げます。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「さつまの国に入る
－昭和53年赴任当時の思い出－」

生物資源化学科
生命機能化学講座
応用糖質化学研究室
菅　沼　俊　彦

残り１年となってもなかなか気持ちの整理がつかないうちに、遂に自分にも回想を書く期限が迫ってきた。京

都大学で10年間学生時代を過ごし、ようやく助手のアカデミックポストを得て鹿児島大学農学部永濱研究室にやってきたのは34年前の昭和53年５月である。市電二軒茶屋の近くに下宿したので、日曜日は掃除・洗濯のあと、午後から鴨池のダイエーに行くのが常であった。当時は鴨池ダイエーが市内唯一のビッグなショッピングモールでまだ目新しさが残っており、関西なまりで応対してくれる定員さんがいた。レジのお姉さん方も、支払いが済むと一人一人に丁寧に両手を揃えてお辞儀をしてくれていたのが印象に残っている。また、アベックが失踪したので吹上浜に夕方行くなとすでに言われていた。

赴任直後の学科行事として、ソフトボール大会が天保山公園であった。旧農芸化学科は４年から分属なので研究室ごとに６チーム、１年生から３年生が各２チームずつ、計12チームでブロック・リーグ戦を戦う。平日授業をまる１日潰しての行事なので、学生は勿論、教員も教授層（西原、品川、小林、大西、檜作、永濱）を含め全員参加という現在では考えられない学科行事である。昼食は研究室毎に教室系職員のお姉さん方が作ってくれた重箱を一緒に突き合い、夜は順位表彰式と乾杯の後、各研究室の教授室が飲ん方会場となって、延々午前様になるまで飲んでしゃべくりまわる。ときには二次会として学生達と天文館に繰り出し、当時流行のYMCAを一緒に踊ってもう一汗流すといった付き合いだった。この学科行事を企画実行するのは３年生が世話する「化友会」という学科学部生の自治会組織である。３年以下の未分属学生達も夜の飲み会には参加し、各研究室を少人数に分かれて廻って先輩や教員達と交わる。未分属学生は部屋に入るとき学年と所属学科名それに出身高校を大声で言わされる。学生にとっては分属前に各研究室の雰囲気と実験内容の違いなどを知る良き機会となる。

「化友会」の行事としては、春と秋のソフトボール大会の他、新入生歓迎コンパ、七夕コンパ、進学生歓迎コンパ、卒業生追い出しコンパ、それに自由投稿と学生による研究室紹介からなる「ソテツの実」という会誌まで年１回自力で発行していた。これら、多彩な「化友会」の行事により先輩・後輩の絆が生まれていた。特に大学祭は、一大行事でみこし製作に２週間以上、最後の何日かは徹夜で頑張っていたように記憶する。金曜日の午後みこしパレードでへとへとになった後も、土日はテント出店のために仕入れと製造に奔走し、また大学文化祭に相応しい企画展示までしていた。文字通り化友会の旗の下に農芸化学科歴代の学生が集い、大学を巣立っていった。私事で恐縮であるが家内もその旗の下で学生時代を過ごした一人であり、２，３学年上の先輩の名前が分かるようだ。家内とは故蟹江松雄先生の学長再選の祝賀会で知り合った。赴任の秋に市内在住の研究室卒業生が３-40名集まった中の１人である。「この先生おもして、おもして。さあ飲みやんせ。」とおだてられ、飲めない焼酎を３杯立て続けに飲まされてあれこれする内に、翌年８月ふと気づいたら荒田１丁目の教会裏のマンションに一緒に住んでいた。

学科教職員の１泊旅行というのも11月祭中にあった。出発の朝、西駅から人吉に向けて列車に乗り込むなり、紙コップが配られる。お茶がでてくるのかなと思っていると大間違い。焼酎とお湯ポットが廻ってくる。酒盛りが始まる。世話役研究室は焼酎１升瓶とお湯割り用のポットを持参しないといけない。これがないと致命的ミスとして後世に語り継がれる。人吉での川下りも当然焼酎で身体を温める。夕方、宿に戻って温泉で身体を温ため、浴衣に着替えて大食堂で宴会が始まる。その後も一番広い部屋で女性も含め参加者全員で２次会が始まる。12時過ぎまでお開きがあるまでその間、一日中ずっと飲ん方が途切れない。家内から「焼酎も飲めんでぐらしか」と目下されてきた私としては、ホントとんでもない所に来たと思った。

当時を振り返って苦節34年、周囲の情状酌量のおかげでなんとか身体を潰さずに無事勤め上げられほっとしている(笑)。勿論、視点を焼酎に向ければ、一升瓶の周りには常に人々の笑い声があり、学生と教員、ヒトとヒトとの間の絆を深めている。まさに「人と自然の協働作業で作り出される最高傑作」とつくづく思う。焼酎天国さつまの国万歳！

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「元気な農学部を経験し、更に目指して！」

生物資源化学科
食糧生産化学講座
青果保蔵学及び遺伝子制御学研究室
松　尾　友　明

私は昭和47年６月25才の時に農学部に修士卒で助手として赴任して来ました。それから約40年の年月があっという間に過ぎ、今となって様々な思い出が走馬灯のように頭の中を過ります。

「松尾君、何かスポーツができるかね？」と赴任そうそう教授から聞かれて、「はい、球技は何でもするのが、好きです」と応えると、「じゃあ、来月の学科対抗のソフトボール大会に出てください。秋には、学部対抗のソ

フトボール大会がありますから、そちらにも参加してください。」

当時は、農学部の中で７学科に事務を加えて、８チームで試合をして優勝チームを決めていたと記憶しております。教育学部や水産学部、時としてタバコ産業のグラウンドを借りて、今だとサボタージュとなり悪いことになるかと思いますが、当時は平日や土曜日に朝から夕方まで暑い最中、白いボールを追いかけていたことが昨日のことのように思い出されます。

今だと色々と問題も指摘されるかと思いますが、振り返って考えると、これらのスポーツ大会は大きなメリットもありました。特に普段顔を合わせるチャンスの少ない事務職員の方々とお知り合いになれたり、新任の教職員の方にもすぐ話し合える機会ができたり、非常に農学部内での意思疎通が良かったような気がします。また、教授、助教授、助手と階層を超えて楽しみ語り合っていたような気がします。

更に試合後の「飲んかた」では、友達のように試合の感想を述べ合ったり、ある時はプレーの失敗をダメだしして、焼酎のさかなに延々と語り合ったことは大変有意義だったと思います。その頃に知り合った教職員の方々は、不思議と何か戦友のような気持ちがして、今もお会いすると距離感が他の方々と違う気がします。そのような経験をした仲間同士で機会があって、難しい会議や事務仕事でも何か当時の戦友とするとスムーズに事が運んでいると思います。恐らくスポーツプラス飲み会を通じて、彼は、彼女はこんな性格でこんな風に考えて、このように仕事ができるとだいたい理解できているからだと思います。

現在、連大で学務をしておられる、石川真由美さん、当時農学部の学生係か教務係で働いておられたと思うのですが、ある時のソフトボールの試合で、彼女が事務チームのピッチャーをしており、私が園芸学科チームの４番を打っていたと思うのですが、彼女の渾身のスピードボールをフェンス越えのホームランにしたのは今も心の中で煌めく私の青春の１コマでした。多分、彼女は全く憶えていないと思うのですが。それ以外に書き始めると止らなくなるのですが、バレーボール大会や卓球大会での様々な出来事を楽しく懐かしく思い出しております。

最近は、世知辛くなって、大学内においてさえ、学生さんも教職員もあれはだめ、これはしてはいけないと多くの規制の中で生活や仕事をしているような気がしますが、もう少し本質的な目標を見据えて、全員が「凛とした大人」として余裕を持って自由に仕事や勉強、研究ができる環境と意識があればいいような気がします。近い将来、試験監督の必要のない試験や出席を取る必要のない授業、細かい校則の必要のない大学、学部ができれば、年老いた卒業生としましては大変嬉しく思います。

最後になりましたが、私のようなものに長い間教育と研究の場を与えていただき本当に有り難うございました。いい教育者だったかと聞かれると自身、疑問符をつけざるを得ませんが、研究者としては大変楽しい日々を過ごさせていただきました。鹿児島大学、農学部に厚く感謝しながらペンを置きたいと思います。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「焼酎学講座黎明期の想い出」

附属焼酎・発酵学
教育研究センター
焼酎製造学部門

鮫　島　吉　廣

焼酎学講座は平成18年４月に開設され、一年間の準備期間を経て、平成19年４月に開講した。私が農学部生物資源化学科焼酎学講座焼酎製造学研究室特任教授として採用されたのは平成18年10月のことである。焼酎学講座開設の話は、開設１年前に天文館のスナックから始まった。当時鹿児島大学副学長であった竹田靖史先生が、独立行政法人化された鹿児島大学のなすべきことを同窓会に相談したところ、焼酎を専門に教育研究する講座をつくるべきという意見が多かったという。そのころ焼酎はウイスキーを抜き、清酒を抜き、ビールに次ぐ市場を作り、とりわけ芋焼酎が急速にその市場を拡大していた時期であった。その一方で、焼酎業界は焼酎造りの技術と文化の担い手であった杜氏、蔵子の高齢化が進み、後継者の育成が急務となっていた。新設講座は、「焼酎講座ではなく、焼酎“学”講座でなければならない」、「全国に先駆けて鹿児島大学がやることに意味がある。後塵を拝してはならない」と熱く語る言葉に賛同し、一緒にやりましょうということになった。その後、強力な助っ人が現われ、伊藤祐一郎知事や県議会の支援を皮切りに、鹿児島県酒造組合、県内焼酎メーカー全社の支援を得てわずか一年後に開設の運びとなった。

焼酎学講座は、マスコミに大きく取り上げられ鳴り物入りで発足した。平成19年７月に竣工した焼酎学講座研究棟には、“北辰斜め”にちなみ、またここを中心として世界が回る拠点にしたいと意気込み、“北辰蔵”と名づけた。11月には北辰蔵の前に、焼酎はじめ地域産業振興ならびに後進の育成に多大な貢献をされた蟹江松雄先生の胸像を建立した。同窓会はじめ先生の薫陶を受けた

関係者の寄付によるものである。台座には、かつて先生が書かれた文章の中から、学生へのメッセージとして“夢を持っている人を私は美しいと思う”と刻んだ。また、胸像建立にあたって寄せられた基金の剰余金をもとに「蟹江松雄先生顕彰会（会長は農学部長）」をつくり、優秀な学生と、地域産業振興に功績があった社会人を毎年表彰している。同窓会との関係では、鹿児島大学農学部100周年記念焼酎「あらた百」の開発にも参画させていただいた。

焼酎学講座は寄附講座の性格上、常に社会との連携、情報発信、開かれた大学を意識しながら運営に努めた。産官学からなる勉強会「本格焼酎部会」の創設、市民向けの「焼酎学シンポジウム」開催、中国、韓国の研究者との連携による「国際シンポジウム」等を通じアジアとの連携も深めてきた。中国の蒸留酒の本場にある四川大学錦江学院とは部局間研究協力協定を結んだ。社会人教育にも積極的に取り組み、再チャレンジプログラムによる社会人の大学院への受け入れ、“かごしまルネッサンスアカデミー”による社会人教育、昨年からは履修証明プログラム「焼酎マイスター養成コース」を開講している。

昨年１月には、県酒造組合と鹿児島大学の共同事業として、宇宙を旅した焼酎麹と酵母で仕込んだ宇宙焼酎“宇宙だより”を企画・発売した。鹿児島大学ブランドの焼酎としては、“きばいやんせ”、“春秋謳歌”に続き、焼酎学講座ができてから“天翔宙”、“宇宙だより”、そして今年２月の“進取の気風”が加わった。

焼酎学講座は平成23年３月に寄附講座を終え、４月から農学部付属焼酎・発酵学教育研究センターへと衣替えし、より充実したものになった。振り返ると、走り続けてきた６年半だったが、これも多くの仲間に支えられご支援いただいたおかげであり、とりわけ焼酎学講座の優秀で労をいとわない同僚、そして学生に感謝したい。そして、ご支援いただいた多くの皆さまに心より感謝申し上げます。

蟹江松雄先生の胸像脇には生前お好きだった桜の花を植えたが、今年初めて満開の姿を見せてくれた。鹿児島大学が今後とも夢ある学府であり続けることを願っています。

「退官にあたって」

附属焼酎・発酵学
教育研究センター
醸造微生物学部門
伊　藤　　清

私は、平成24年12月末で鹿児島大学を退職した。満64になったばかりであった。鹿児島大学に来てからわずか６年間であったが本当にお世話になりました。

私は鹿児島大学に来る以前はほとんどの間財務省（その間、大蔵省→財務省→独法と変わり、組織も、醸造試験所→醸造研究所→酒類総合研究所、に変わったが）にいた。鹿児島大学に来た当初は50代であったが、すぐに還暦を迎えることになった。還暦を迎えると同時に体調を崩し始め、しまいには歩くのも困難になってしまった。ご迷惑をおかけすることになり、本当に申し訳なく思っております。

鹿児島に来た当初は桜島もおとなしく、噴火することはほとんどなかったが、次第に噴火回数も増え、最近の降灰の多さは記憶に新しいところである。目の前に桜島がそびえ立っているのを見た時は感激した。噴火のない桜島なんて鹿児島らしくないと、呑気に考えていたが、その考えが変わったのは先に述べたとおりである。最近は毎週ベランダの掃除をしていた思い出がある。

鹿児島に来てから本当に目まぐるしく周囲の状況も変わっていった。その状況はあまりにも多く、枚挙にいとまがないほどであるが、学生さんに比較的関係が深いものを選べば次のようになるであろうか。リーマンショック、大震災、民主党の誕生そして崩壊、それに続く自民党の復活、就職難、等々であろう。

リーマンショックの兆候（バブルの崩壊等）は前の職場時代からあったが、それが具体化したのは、鹿児島大学に来てからのことであったろうか。その影響は大きく今でも後を引き継いでいると言っても過言ではなかろう。

大震災は本当にショックであった。特に原発の影響は信じられないという感じがする。授業の中で、遺伝子工学の利用について講義をしていたが、それが根底から崩れるような気がした。技術を過信することなくあらゆる可能性を根底から考え直すことが重要であると改めて考えさえる事件であった。

民主党の誕生そして崩壊、それに続く自民党の復活についてはまだ日も浅く判断は定まっていないし、評価を

することは差し控えたいが、地に足をついて仕事をすることがいかに重要であるか考えさせる事件であった。

就職難については、私も頭を痛めている問題である。私の時はまだどうにかなるという時代であったが、今はどうにもならないという時代であろうか。いずれにしても学生さんには、勉学だけでなく趣味・読書その他（自分の能力を高めること）に貪欲に取り組んでいってほしいと考えている。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「森林研究を振り返る」

生物環境学科
森林管理学講座
育林学研究室
米　田　　健

37年間の教員生活を振り返り、最後の11年余りを鹿児島大学農学部教員として過ごせたことを喜んでいます。100年を越す農学部の歴史と総合大学としての広がりが、私の研究教育の幅を広げてくれたと感じています。多様な人材が身近にあり、多くの情報が集まるところに大学の魅力があります。同じ視点から、実学をすすめる農学部にとって同窓会の存在意義は大きいと思います。

10年一仕事とよく言われますが、育林学研究室に所属した私は少し欲張って二つの研究に取り組みました。その一つは“奄美地方における亜熱帯成熟林の構造と機能：生態系修復のためのモデル林の実態把握”という森林の保全研究です。同僚の水永さん（現静岡大学教授）とともに、大きなオキナワウラジロガシが生育する森林に４ヘクタールの調査地を設け、修復のための基礎資料収集を2003年から始めました。その後、学内外の多くの研究者と連携し研究はいまも継続しています。当育林学研究室では12人の卒論生と６人の修論生がここを研究地としました。これまでの解析から、当地の森林が台風攪乱によるユニークな構造をもつこと、また開発よる森林の孤立・分断化が種多様性に大きな影響を与えていることが明らかになりました。いま奄美地方は世界遺産の候補地として名乗りをあげていますが、これらの資料が今後の保全に役立つものと自負しています。

二つ目の研究は熱帯林研究です。熱帯林の劣化・後退はなお続いていますが、保全に必要となる管理法についての資料がきわめて乏しいのが現状です。72年から始めた熱帯林研究を周囲の理解により赴任後も続けることができました。赴任後早々にインドネシアの国立アンダラス大学と大学間交流協定を結ぶことができたことにより、両大学の交流は全学的に広がりました。農学部だけでも13名の教員が訪問し、また学振による若手研究者の研修プログラムでは多数の学生が当地で研究しました。ここ数年は育林学研究室では、熱帯雨林の持続的択伐法に研究の力点をおいてきました。これまでの解析から、択伐施業の直接・間接的な影響により、残存木が高い枯死率で消えていく現象を伐採率との関連性から明らかにできました。これらは施業の指針設計において有効なものと考えています。

研究対象とした奄美地方では産業基盤が脆弱で人口減少が続いており、放棄された畑や林地が多数みられます。多様な作物・樹種と高い生物生産力を活用した産業の振興を新たな視点から再検討してみてはどうだろうか。マレーシアやインドネシアの熱帯林は、アブラヤシ園の開発や貨幣経済の高まりによる地域住民による開墾圧の増大などで、森林後退は収まりそうにありません。高い人口増を背景にますます自然への負荷が増大するのではないだろうか。研究の成果が、これら人々の暮らしの安定に結びつかなければならないと考えています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「乾燥地探検」

生物環境学科
環境システム学講座
環境情報システム学研究室
望　月　博　昭

私は農学部に1993年４月に赴任しましたので丁度20年いたことになります。赴任当初、何を研究しようかと思案した結果、焼酎廃液の処理が問題になっているということで、廃液を物理的に処理する方法の研究に取り組み、いくつか論文を書いたりしました。その後、地球環境問題に関心が移り、特に地球で最も過酷な環境下にあるといわれている、乾燥地帯における農業や人々の生活の研究をするようになりました。

14,5年前には、インドの大学、日本の５大学と韓国の大学の７大学で調査団を組んでインドのタール沙漠（日本の国土の面積とほぼ同じ）の緑化や水事情の調査のために、沙漠をジープで約10日間2000kmくらい走破しま

することは差し控えたいが、地に足をついて仕事をすることがいかに重要であるか考えさせる事件であった。

就職難については、私も頭を痛めている問題である。私の時はまだどうにかなるという時代であったが、今はどうにもならないという時代であろうか。いずれにしても学生さんには、勉学だけでなく趣味・読書その他（自分の能力を高めること）に貪欲に取り組んでいってほしいと考えている。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「森林研究を振り返る」

生物環境学科
森林管理学講座
育林学研究室
米　田　　健

37年間の教員生活を振り返り、最後の11年余りを鹿児島大学農学部教員として過ごせたことを喜んでいます。100年を越す農学部の歴史と総合大学としての広がりが、私の研究教育の幅を広げてくれたと感じています。多様な人材が身近にあり、多くの情報が集まるところに大学の魅力があります。同じ視点から、実学をすすめる農学部にとって同窓会の存在意義は大きいと思います。

10年一仕事とよく言われますが、育林学研究室に所属した私は少し欲張って二つの研究に取り組みました。その一つは“奄美地方における亜熱帯成熟林の構造と機能：生態系修復のためのモデル林の実態把握”という森林の保全研究です。同僚の水永さん（現静岡大学教授）とともに、大きなオキナワウラジロガシが生育する森林に４ヘクタールの調査地を設け、修復のための基礎資料収集を2003年から始めました。その後、学内外の多くの研究者と連携し研究はいまも継続しています。当育林学研究室では12人の卒論生と６人の修論生がここを研究地としました。これまでの解析から、当地の森林が台風攪乱によるユニークな構造をもつこと、また開発よる森林の孤立・分断化が種多様性に大きな影響を与えていることが明らかになりました。いま奄美地方は世界遺産の候補地として名乗りをあげていますが、これらの資料が今後の保全に役立つものと自負しています。

二つ目の研究は熱帯林研究です。熱帯林の劣化・後退はなお続いていますが、保全に必要となる管理法についての資料がきわめて乏しいのが現状です。72年から始めた熱帯林研究を周囲の理解により赴任後も続けることができました。赴任後早々にインドネシアの国立アンダラス大学と大学間交流協定を結ぶことができたことにより、両大学の交流は全学的に広がりました。農学部だけでも13名の教員が訪問し、また学振による若手研究者の研修プログラムでは多数の学生が当地で研究しました。ここ数年は育林学研究室では、熱帯雨林の持続的択伐法に研究の力点をおいてきました。これまでの解析から、択伐施業の直接・間接的な影響により、残存木が高い枯死率で消えていく現象を伐採率との関連性から明らかにできました。これらは施業の指針設計において有効なものと考えています。

研究対象とした奄美地方では産業基盤が脆弱で人口減少が続いており、放棄された畑や林地が多数みられます。多様な作物・樹種と高い生物生産力を活用した産業の振興を新たな視点から再検討してみてはどうだろうか。マレーシアやインドネシアの熱帯林は、アブラヤシ園の開発や貨幣経済の高まりによる地域住民による開墾圧の増大などで、森林後退は収まりそうにありません。高い人口増を背景にますます自然への負荷が増大するのではないだろうか。研究の成果が、これら人々の暮らしの安定に結びつかなければならないと考えています。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「乾燥地探検」

生物環境学科
環境システム学講座
環境情報システム学研究室
望　月　博　昭

私は農学部に1993年４月に赴任しましたので丁度20年いたことになります。赴任当初、何を研究しようかと思案した結果、焼酎廃液の処理が問題になっているということで、廃液を物理的に処理する方法の研究に取り組み、いくつか論文を書いたりしました。その後、地球環境問題に関心が移り、特に地球で最も過酷な環境下にあるといわれている、乾燥地帯における農業や人々の生活の研究をするようになりました。

14,5年前には、インドの大学、日本の５大学と韓国の大学の７大学で調査団を組んでインドのタール沙漠（日本の国土の面積とほぼ同じ）の緑化や水事情の調査のために、沙漠をジープで約10日間2000kmくらい走破しま

した。砂丘は高さが100mを越えるものもあり、ちょっとした小山のようなものもありました。ヒマラヤ山脈からの雪解け水をインディラ・ガンジー運河に集めて沙漠の緑化のために利用していました。当時は運河のすぐ近くまで砂丘が迫ってきていましたが、７，８年後は運河の両側には幅数kmにわたって緑地帯が開けていると聞きました。日中の沙漠は気温がとても高く、砂丘と砂丘の間で測ったところ53℃を記録しました。このような暑さで水分が皮膚からどんどん蒸発するためか、朝起きた時と夜寝るとき以外は一回も小便をすることがありませんでした。砂面の温度は60℃を越えますので、靴を履いて歩くのですが、地元の人達は裸足で平然と歩いている人もいたりしました。家は石作りのため中はとても涼しく過ごしやすい状態になっています。しかし毎年、砂嵐のために砂が緑地帯を十数m侵食するといわれており、畑や家屋がどんどん少なくなってきているそうで、私が訪れた場所は今はどうなっているのでしょうか。

５，６年前にはアフリカのチュニジアにあるサハラ沙漠に行きましたが、毎秒20mくらいの砂嵐が吹く中で、砂の移動形態を有村さんという女子学生と一緒に３時間くらい調べたことがとても懐かしく思い出されます。台風は雨と風ですが、砂嵐は砂と風ですので、皮膚にあたるととても痛く難儀しました。目と口、鼻は砂塵から守るための防護マスクをつけていたので何も問題はなかったのですが、砂が服の中まで入ってきて、夕方ホテルでシャワーを浴びると、砂がドカッと足下に溜まりました。沙漠の花はとても色鮮やかですが、葉は細長いものが多く、また樹木も低いものが多いです。沙漠の中に今は砂で覆われていても、数千年前は大森林地帯だったところもあり、その名残りとでもいうような、乾燥して岩のように硬くなった巨木があちこちに転がっているところも見られました。チュニジアには数十年前は沙漠だったところが、日本の協力により大果樹園に変貌しているところがありとても親日的でした。チュニジアの乾燥地研究所の先生と話したときには、“アジア、アフリカで欧米と科学技術で対抗できるのは日本だけだから、日本の皆さんがんばってください。”と激励されたことがありました。

このような乾燥地の面積は地球の陸地の約1/3を占めており、その面積はどんどん増加し、世界全体で毎年、九州と四国を合わせたくらいの緑地が沙漠化しているといわれています。

現状の速度で沙漠化が進行すると、70～80年後には南米アマゾンの熱帯雨林も沙漠になるだろうともいわれています。このようなことで沙漠の緑化はとても大事で、緑化は地球温暖化の進行を遅らすこともできるだけでなく、農地にすれば多くの穀物が収穫できて多くの人口が養えるだろうといわれています。このようなことで国際協力がとても重要になっています。

最後に農学部の皆さまにはとてもお世話になりました。事務の方々にはいつも面倒な書類の手続きをしてくださいましてありがとうございました。鹿児島大学農学部とあらた同窓会が今後、益々発展しますことを祈念しています。お世話になりました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

「定年を迎えて；何ができ、何ができなかったか」

農学部・共同獣医学部
附属越境性
動物疾病制御研究センター
岡　本　嘉　六

1980年６月に鹿児島大学講師農学部に着任してから約33年が過ぎ去り、無事にこの日を迎えられたことを、同窓の皆様方に感謝したい。

私が着任した獣医公衆衛生学研究室は、獣医学教育６年制度への移行に伴って新設されたばかりで、研究用機材だけでなく実習用機材も未だ整っていなかった。元いた千葉県ガンセンターも新設時に着任したので事情は同じと思ったが、ヌードマウスの導入に際し未完成のSPF施設とアイソレータを直ちに整備する資金を使えたが、今度はその資金がなかった。さらに、この分野は全国的にもできたばかりであり、目的と内容が定まっていないことに直面した。獣医公衆衛生学教育研修協議会会長の麻布大学山田俊雄教授が、疫学を中心にした方法論を確立する必要があり、その要は統計学であると述べたことに私は賛同し、統計学を教えるために数理モデルの高度な数式を理解するためのシュミレーションソフトを作成した。しかし、微生物学や薬理学などを専門する大半の先生方は新たな分野に挑戦する気はなく、協議会では自分ができることを基準に意見を戦わしていた。協議会として作成した教科書と実習書は山田教授の退官とともに廃刊になった。

1996年７月に大腸菌Ｏ157による堺市学校給食事故が発生し、これを契機に様々な事案に首を突っ込む羽目になった。疫学を多少理解しておれば、原因食材の追求よりも早朝玄関先に届けられた食材が２時間以上常温で放置されていた事実に目を向ける筈だが、厚生大臣のカイワレ発言以降ほとんどの専門家は沈黙を守り、騒動が広

がるのを眺めているだけだった。国際社会では、食品の安全確保についてのHACCPやリスク解析が登場し、これこそ獣医公衆衛生学の方法論となるものであると確信し、その理解と紹介に精力を尽くしてきた。2008年には「世界は一つ、健康は一つ」の概念を国際機関が打出し、ヒト・家畜・生態系で発生する新たな問題に様々な学際領域が協力して取組むための枠組みとなった。

他方、獣医学教育課程が６年制となったものの教員数は増えず、獣医系大学で再編整備運動が展開されるが、私もその一員として奔走した。食料の国際取引に係る安全性を確保するため、輸出入には国際獣医療証明書の添付が義務付けられているが、それを担当する獣医師の資質に格差があることはこの制度の意義を薄める。国際獣疫局（OIE）は獣医学教育の最小基準の作成に取り掛かっているが、本学が共同獣医学部として前進していることは喜ばしいことである。

大学教員は後進を育成することが要であり、そのためには自らの研究領域で成果を上げることが基本である。私のこれまでを振り返って「教員失格」の思いはするものの、このような時代に私のような役回りをする教員がいても良かったのではないかと思っている。

講　演　録

平成24年11月23日開催のあらた同窓会講演会の講演要旨です。

新花色の作出

生物生産学科
園芸生産学講座
橋　本　文　雄

観賞園芸学研究室の花色育種の最近の研究業績について紹介する。特に、観賞用切り花のトルコギキョウなど、花きの花色発現に関わる主要アントシアニジン色素の遺伝に５つの複対立遺伝子が関与することを見出し、遺伝子型*E/e*･*D/d*･H^XH^X･*Pg/pg*･*Cy/cy*･*Dp/dp*を用いて新花色を作出する「花色遺伝型交配法」と称した技術を開発、目標とする花色の育種年限の大幅な短縮に成功した。

「花色遺伝型交配法」とは、花きの花色発現に関わる３種の主要アントシアニジン色素のペラルゴニジン（pelargonidin; Pg）、シアニジン（cyanidin; Cy）、デルフィニジン（delphinidin; Dp）のフラボノイド生合成における遺伝様式であって、遺伝子型*E/e*･*D/d*･H^XH^X･*Pg/pg*･*Cy/cy*･*Dp/dp*を用い、その３種の色素生成を予め確定することによって新花色を作出する技術である。

本遺伝様式について、フラボノイド生合成のB環の水酸化に係わるフラボノイド3'-ヒドロキシラーゼ(F3'H)やフラボノイド3',5'-ヒドロキシラーゼ(F3',5'H)などの遺伝に着目しその後代分離を調べ、Pg、Cy、Dpの生合成に関与するジヒドロフラボノールリダクターゼおよびアントシアニジンシンターゼの酵素系の遺伝が、それぞれ*Pg/pg*、*Cy/cy*、*Dp/dp*の遺伝子によって制御されていることと併せて、F3'HやF3',5'Hの遺伝が５つの複対立遺伝子によって制御されているという新しい法則を見出した。即ち、色素前駆体のB環の水酸化に関与するF3'HとF3',5'Hの酵素反応系には、H^T、H^F、H^D、H^Z、およびH^Oの５つの複対立遺伝子が存在し、それぞれB環の3', 4' 位の水酸化、4' 位の水酸化、3', 4', 5' 位の水酸化、3', 4', 5' 位の水酸化、および3', 4' 位と3', 4', 5' 位の水酸化を制御し、これらの組合せによって色素表現型と花色表現型が決定されることを見出した。「花色遺伝型交配法」は、花冠形質に係わる覆輪／全色系の遺伝子型*E/e*および八重／一重の遺伝子型*D/d*を含み、設計図ともいうべき遺伝子型*E/e*･*D/d*･H^XH^X･*Pg/pg*･*Cy/cy*･*Dp/dp*を用いて後代個体に予測したアントシアニジン色素を遺伝させ、その結果、花冠形質を含めた新花色を作出する技術である。

また特に、トルコギキョウの複対立遺伝子として、*F3'5'H*遺伝子の塩基配列パターンが複数種あることを明らかにした。複対立遺伝子H^O、H^DおよびH^Zは機能を持った*F3'5'H*遺伝子を有しており、複対立遺伝子H^TおよびH^Fでは*F3'5'H*遺伝子に5405bpのレトロトランスポゾン（RTpn）が挿入され、その機能が消失したことを初めて見出した。さらに、60系統のトルコギキョウで*F3'5'H*遺伝子の調査を行った、RTpnの挿入をホモ型で持つ系統は必ずDpの生合成が欠損していることを見出した。結果、実生からDNAを抽出し、*F3'5'H*遺伝子内のRTpnの有無を調べることによって、開花後の花色を早期に予測できる技術の開発に成功した。

これまで新規花色の育種には少なくとも５年の歳月を要するといわれていた。しかし、本法を用いることで目標とする花色は半年～１年で作出可能となり、育種年限の大幅な短縮に成功した。今後、鹿児島大学オリジナルブランド花きの創作と技術の実用化を目指したい。

支部便り

広島あらた会だより

「広島あらた会第62回総会について」

F38　平野朝彦
（広島あらた会支部長）

毎年１回開催している広島あらた会総会は、去る３月17日（土）広島市内の共済施設「鯉城会館」で行われた。同窓の諸氏も高齢者が増え、昼間の開催となって久しいが今年はもっとも出席者が少なく、ワースト記録となってしまい残念であった。

農学科昭和８年卒の大先輩をはじめとする会員数は67人となっているが、今年はよほど都合が悪い日となってしまったようである。ここ数年出席率の減少傾向があり、なんとか出席率向上に頭を悩ませているが妙案が見つからない。

それでも参加された方々はいろんな話題に花がさき、時間がたつのも忘れてしまうほどであった。最後は恒例の高農校歌、第一寮歌、第二寮歌を絶唱し、健康への留意と来年の再会を約束して散会した。

過日、大学から今年の卒業生名簿を送ってきていただいた。それによると、県内就職者・在住者が５人もおられる、早速連絡をとり同窓会があること、入会のお願いをしてみたい。なかなか情報がないなか、これはありがたい情報と感謝している。

広島あらた会
平成24年3月17日　於：鯉城会館「鳳凰の間」

近畿あらた会だより

「近畿あらた会だより」

昭和25年卒
内田　昭

危ぶまれていた台風２号は、四国の南海上で温帯低気圧に変り、同窓会の開催もほっとしました。

平成23年５月29日、昨年までとは異り、藤岡幹事の発案で、大阪駅ビルの近くの季節料理「ひら井」で同窓会を開催。大阪駅周辺では、古くからの阪急、阪神、大丸などに加えて伊勢丹、三越等百貨店が目白押しに立ち並ぶ一大ショッピングゾーンです。遊ぶことには欠きません。

総会は、浮津会長のご挨拶にはじまり、藤岡幹事の業務、会計報告そして林満先生の母校の紹介があり、来年の４月には獣医学科の獣医学部への昇格が決り、我々獣医科卒業生には喜ばしい限りです。

久し振りに顔を合わせた面々が、古い人は昔の懐古談思い出等、新しい人は現在の思い、夫々に言いたいことを言い合うなごやかな雰囲気でした。60数年前、郷里鹿児島から24時間かけて大阪駅に降り立ち、古いレールを利用した鉄柱が立ち並ぶホームでやっと大阪に着いたことを思い出しました。現在は屋根、通路、展望台もガラス張り、エスカレーターも設置され、正に昔日の感があります。学校を出て、わけのわからぬままに先輩に誘われて出かけました。それが「あらた同窓会」だったのです。以来60有余年いろいろの人に出会いました。いろいろな出来事もありました。そして我々には、先輩たちの築かれたこの「あらた会」の灯を続けるべく努めねばならぬことを痛感しました。

同窓会の参加者は、年々少なくなって来ましたが、中には広島県の宇部から新幹線を利用して参加して貰うF38の日野氏の顔があり、幹事として頭の下る思いがします。

同時に、如何にして参加者が一人でも増えることを願うや切です。

長崎あらた会だより

「平成24年度総会の開催」

長崎県在住のあらた同窓会関係者が集まり旧交を温める集い「長崎あらた会」は、ほぼ２年おきに全学科卒業生が集まる総会を開催しております。

平成24年度は８月４日（土）に県央の諫早市に41名が集まりました。

総会に先立ち、平成２年に請われて島原市収入役に迎えられ、平成３年に助役就任、平成４年12月から平成20年12月まで島原市長を務められ、雲仙噴火災害の復旧に尽力された吉岡庭二郎様（農学科34年卒）に記念講演をいただきました。市長としての御苦労、災害復旧への取り組みを、御自分の座右の銘を題に市長在任中を記録された「一陽来復」をもとにお話ししていただきました。

総会では支部規約を大幅に見直し、組織の見直しもおこないました。

新しい組織と担当者は以下のとおりです。

顧　問	吉岡庭二郎（農学科　S34）
会　長	森永　鉄美（林学科　S38）
副会長	三浦　徳明（獣医学科　S48）
幹事(事務局長)	寺本　　健（農学科　S59）
幹事(事務次長)	市原　泰博（農学科　H01）

なおさらに幹事として調整員若干名を置き情報伝達等を緊密にすることとしました。

総会後の懇談会は皆様の貴重なお話しで時間の経つのを忘れるほどで、会計さんは予算オーバーを心配をするほどでした。

（文責　森永鉄美）

顧問　吉岡様の講演

終宴の万歳

東海あらた会だより

「東海あらた会だより」

東海地区（愛知・岐阜・三重）の第46回農学部あらた同窓会は、降霜の季節を感じない暖かな平成24年10月27日（土）の正午から、大相撲名古屋場所の大歓声余韻が未だ残る、名古屋城間近にある丸の内２丁目「アイリス愛知」で、大学本部よりご臨席賜った岩井　久先生（農学部生物生産学科病害虫制御学講座・教授、副学部長）をお迎えして開催されました。

ロビーで談笑していた参加の方々も、定刻となり会場に入り、事務担当の原田　滓氏（農学科・昭和36年卒・愛知県みよし市）の司会で始まりました。

議事に先立ち、今年３月にご逝去なされた、大窪文利氏（林学科・昭和14年卒・愛知県知多市）のご冥福を心からお祈りして、謹んで黙祷を捧げました。

続いて、会長の高橋　剛氏（蚕糸学科・昭和38年卒・愛知県岡崎市）より開会の挨拶と併せて、大変ご繁忙の中にも関わりませず、遠路ご臨席賜りました岩井　久先生への謝辞を申し上げました。また、今回の通知印刷等の事務処理を務めて下さった、幹事の中原一郎氏（林学科・昭和44年卒・名古屋市）への謝意が伝えられました。

なお、秋の行事と重なり、写真家としても活躍されている亀山和夫副会長（獣医学科昭和16年卒　三重県津

市）は、二科会写真部展［東京都国立新美術館、愛知県美術館］で、牟田口一義副会長（獣医学科・昭和29年卒　岐阜県美濃加茂市）は、突然の急用の為にお姿を拝せず、出席者が例年になく少数になりました。

議事は、恒例により高橋会長が議長を務め進められました。

1．原田　滓幹事より現在までの「経過及び会計報告」が資料により為され、承認された。

2．「次期開催計画について」は、場所は三県の中心である名古屋市内で催す事とし、具体的な事柄については、後日協議させてもらう事となった。

3．「その他」の事項では、通知を差し上げ、ご返信を頂いた状況とに併せて「会員短信」も配布伝言されました。

以上の議事が終了した後、

ご出席下された岩井　久先生から、『農学部あらた同窓会の状況について。』の講題で、お届け下さっていた、「鹿児島大学同窓会連合会会報№14」「あらた同窓会平成23年秋季号」に基づいて、24年４月に共同獣医学部が新たに設置され、総合大学へと充実・発展をしている母校の近況等の詳細なるお話を拝聴させて頂きました。

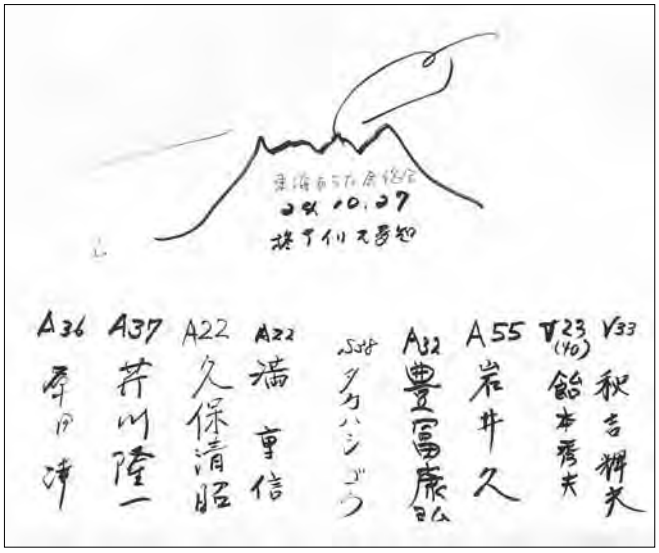
次いで、懇親会に移りましたが、料理等が整う前に原田　滓幹事提供の農学部開学100周年記念製作CDで、①高等農林学校校歌。②対岳寮歌。③大学創立三十周年歌曲。④北辰斜めに。の歌唱が流れ、一同蛮声を張り上げて歌っていた時代の頃を、想い起こされました。

懇親会は、満　重信前会長（農学科・昭和22年卒、名古屋市）の、ご多用の中、遠路ご出席頂きました、岩井久先生への御礼と、農学部あらた同窓会の益々の発展並びに各位のご健康を祈念しますとの“乾杯”発声で始まりました。

用意された焼酎「薩摩白波」が出回り始める中、芹川隆一幹事（農学科・昭和37年卒・岐阜県各務原市）が持参された、75周年記念の際に作製されたDVDが映写され、旧校舎や当時の荒田の景観が偲ばれて、懐かしく拝見しました。

賑やかな歓談が続く中で予定の午後３時となったので、久保清昭先輩（農学科・昭和22年卒、名古屋市）の「農学部あらた同窓会」の益々の発展と、同窓生各位のご活躍、ご健康を願っての“万歳三唱”を以て解散致しました。

（秋吉輝夫　記）



クラス会・グループ便り

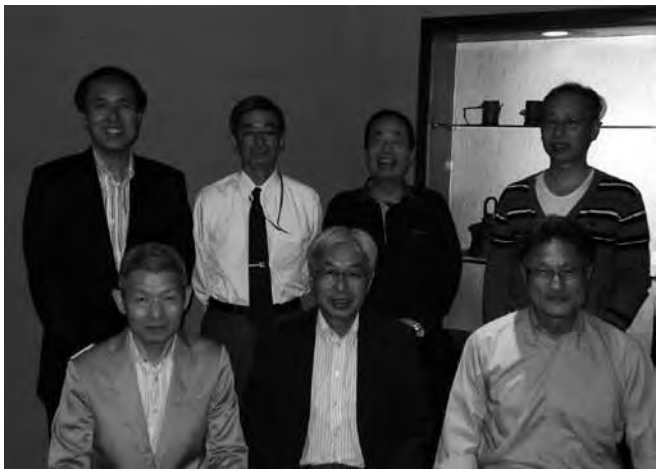
育種学教室交友会を開催しました。

風薫る平成24年５月20日（日）正午、福岡市川端にあるIPホテル福岡で鹿児島大学農学部旧育種学教室の７名が集まりました。

北野先輩が山口県の農林水産部長就任という情報をネットで見つけたことを契機に、旧育種学教室の７名が新幹線などで福岡市に集結。近況報告や学生時代の武勇伝、担当教官の思い出などに花を咲かせました。

会場では、学生時代を懐かしみ、懇談が続きましたが、最後に鹿児島高等農林学校校歌を歌って、次回は、育種学教室の担当教官だった國分先生を交えて、再開しようと散会しました。

（A56　山下修司）



後列　左から　山下（A56）、鳥居（A55）、上野（A55）、八尋（A56）
前列　左から　北野（A52）、村田（A51）、瀧川（A52、旧姓犬童）

林学科　F31同窓会

平成24年５月29日、日本最西端のJR駅佐世保駅に特急みどり11号が定刻の14時25分に到着した。間もなく８人の紳士が下りて来た。みんな見たことのあるなつかしい顔ばかり。この日と翌30日の２日間、佐世保市で開催する昭和31年林学科卒業生のクラス会に出席する面々である。

このクラス会は、卒業以来概ね２年毎に、クラスメート在住の各都市で開催して来たが、今回は佐世保市で開催することとなったのである。

佐世保（SASEBO）市は、何といっても旧海軍の町。明治の初め頃佐世保港が軍港に指定され、更に明治22年に旧海軍の佐世保鎮守府が置かれ、西日本における守りの要であったところである。

佐世保駅で出席者12名全員がそろったところで、マイクロバスで出発。先ず海上自衛隊史料館へ向う。７階建の史料館は、旧海軍の歴史資料館といったところだ。史料館の吉田さんの説明は、旧海軍の歴史上の出来事を年月日はもちろん１分１秒までとうとうと説明していただいた。館内の展示品と共に、吉田さんの説明に圧倒されるばかりであった。

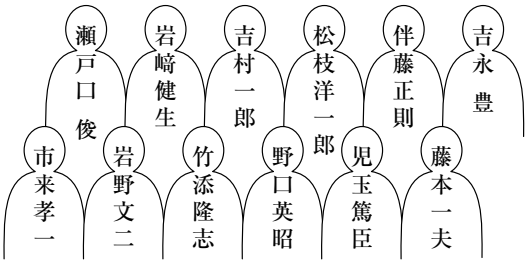
その後、背後にそびえる標高364mの弓張岳に上り、山頂展望所から、佐世保湾や西海国立公園を遠望、昭和16年12月２日「ニイタカヤマノボレ1208」の暗号を発信したといわれる３本の無線塔は、春霞で全く見えなかった。その後、九十九島めぐりの遊覧船の基地鹿子前を経由、大きなクレーンが林立する佐世保重工業（旧佐世保海軍工廠）を車窓から見ながら、午後６時すぎにホテル万松楼に入った。

夜の宴会に先立ち、すでに天国へ旅立たれた４人の学友の冥福を祈って、全員で黙とうを捧げる。アルコールもほど良くまわって、カラオケも入り青春時代のヒット曲「青い山脈」と「お富さん」を全員で合唱する頃は、宴も最高に盛り上がった。翌30日は、同じマイクロバスでホテルを出発し、ハウステンボスへ向った。100万本のバラ祭りは、２日前に終っていたが、まだまだ立派に咲いていた。ハウステンボスの中央にそびえるシンボルタワー「ドムトールン」に上り、最上階からオランダの町そっくりの建物や風車などハウステンボスの全景を見学、帰りはクルーズ船で出口へ。JRハウステンボス駅近くのレストランで昼食、次回は２年後に鹿児島で開催することに決定し、お開きとなった。

すでに60年も前に、あらたの学窓で共に学び、共に遊んだ学友がこのように一緒になって、健康であることを喜び、酒食を共にして互いに語り合うことは何と楽しいことか。いつまでもみんな元気でいてほしい、と願っている。

（F31　岩﨑）

鹿児島大学農学部林学科　F31同窓会
平成24年5月29日　於：佐世保 ホテル万松楼



農学科32年卒業（卒業55周年記念）同窓会

平成24年11月22日（木）昭和32年卒業の私たちは３回目の同窓会を開催した。

【母校訪問】

北は北海道、南は名瀬市から懐かしい仲間（希望者）が12時に銀杏の黄葉真っ盛りの鹿大郡元キャンパス内の中央食堂前に集合した。食堂では、学生に混じって昼食を取り、食後、農学部の朴　炳宰准教授の案内で学内農場を見学した。天候にも恵まれ、ゆっくりと回ることができ、農場の現状を知ることができた。学生時代を振り返り、学内はもちろん農場周辺の風景の変貌に驚くとともに学生時代を懐かしんだ。

その後、農学部共通棟にある農学部百周年記念展示室で年次別の卒業写真や記念の品々を見学した。引き続いて、御多忙の中、冨永茂人農学部長や、生物生産学科の先生方による学部や各学科の現状を、資料や映像を基に説明を聞く機会を設けていただいた。

【同窓会大納会】

17時より、会場をホテル鹿児島東急インに移し、参加者は20名で同窓会大納会と銘打って開催した。写真撮影の後、開会・亡師亡友に捧げる黙祷に続き開会の挨拶の後、第１部の情報交換会に移った。

石畑清武氏、中島三夫氏、中園和年氏による研究成果の紹介、小林正芳氏のユリの育種、杉田旭氏の海外活動、日高晃氏の地域活動を記録した写真の展示・回覧とその紹介があった。その後、出席者全員のテーブルスピーチを行った。

第２部の大納会祝賀会では、宇宙に運ばれた酵母・麹菌で造られた宇宙焼酎による乾杯に続き、経過報告、懇談、懐かしのメドレーの歌唱、寮歌斉唱と会は盛り上がり、学生時代の話題や近況等について、話は尽きず名残を惜しみながらお開きとなった。

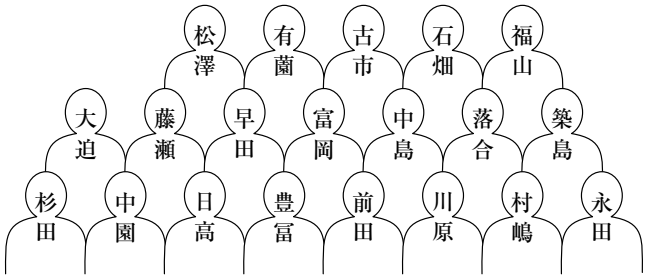
A32全体としての同窓会は今回を最後とするが、鹿児島県在住の会長を中心に向こう５年間「A32鹿児島例会」を開催し、県外在住の会員の自由参加を歓迎することも決めた。

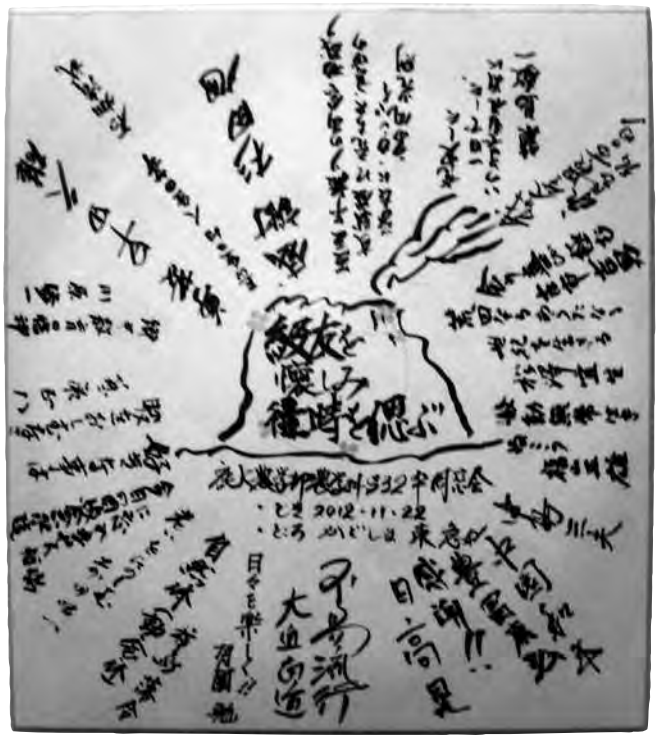
また、記念誌「あらたよ永遠に」と写真集「あらたなる想い出 2012」も発行し思い出に残る同窓会となった。

今回の会の開催ができたのも、学部の先生方や各地より参加してくれた会員の方々、実行委員のご尽力のたまものと皆様方に感謝申し上げます。

（築島敬一　記）

鹿児島大学農学部農学科　昭和32年卒業生同窓会
平成24年11月22日　於：鹿児島東急イン





学生便り

ありがとうわたしの約1450日！

生物生産学科
病害虫制御学講座
害虫学研究室４年
大江　佑季

今日、卒業する皆さん、おめでとうございます。わたしも卒業です。正直、卒業したくない、なんて思っているのは、４年前の自分を考えてみればびっくりです。というのも、もともと私、大学受験に失敗したのです。嫌だ、って入学したこの大学で、大切な思い出がたくさんできました。最後まで見捨てずに、勉強以外にも様々な経験の場を設けてくださった先生方に知り合えました。自分の価値観を大きく変える研修にも行けました。その研修を通して、自分の夢を再確認できました。高校生のころからの「世界的な食と医療の充実」という夢に向かって、少し前進できました。そして何よりも、こんなに態度のでかい私に、しょうがないな、と言いながらも付き合ってくれるたくさんの友人ができました。本当に、この大学に来てよかった。今なら、４年前の自分にも、胸を張ってそう言えます。

さて、これを読んでいる後輩のみなさん、せっかく鹿児島大学に入ったのだから、ここでしか経験できなかった！と思えること、何か１つ、挑戦してください。わたしがそれに気づいて行動したのは３年の夏でした。大学１、２年のころは、受験失敗で、自分を責めてばかりいたのです。２年間､今思えばもったいないことしました！

そしてもし、失敗を恐れて迷っているなら、ぜひ失敗して思い出を作って下さい。大学生活、あっという間に終わります。ほんと、気づけば卒業。しかもそのことに気づくのは、その時間が終わるころ。大学生活、残りはどれだけありますか？　後悔の無いように、いいこと悪いこと、色んなことを経験してください。

焼酎に魅せられて

生物資源化学科
焼酎学コース
焼酎製造学研究室４年
岩切　　駿

「焼酎学って面白そうだなぁ。」そうホームページを見ながら憧れていた受験生の夏から早四年半が過ぎ、この焼酎製造学の研究室からの卒業が日に日に迫ってきました。今考えるとあっというまの研究室生活だった気がします。成績に不安があった私は研究室配属の時、ドキドキしたのを覚えています。無事配属が決まってからの学生生活は素晴らしいものでした｡学生実験での焼酎製造、品評会での利き酒など他大学では味わえない体験が出来ました。また、二泊三日で行った現場実習では実際の焼酎製造現場を体験し、製造するにあたって杜氏さんや蔵子さんとも触れ合い、造り手の想いや大変さを知ることができました。この様々な経験なくしては今の自分はあり得ないと思います。自分の研究や実験を通じ、焼酎の味や香りの奥深さを感じ､ますます焼酎の魅力に惹かれ、より多くの人に焼酎のよさを知ってもらいたいという思いがあります。焼酎に抵抗がある方でもぜひ一口飲んでみてください。焼酎って匂いはワイルドだけど味はマイルドだぜぇ。(笑)

春からはこの四年間培ってきた知識や経験を生かし活躍できる立派な社会人になりたいと思います。最後になりましたが、大学生活の四年間、周りで支えてくださった先生方や気のいい先輩、同期、後輩達に感謝したいと思います。おかげで人間として呑兵衛として豊かに成長することができたと思っています。本当にありがとうございました。そしてこれからも宜しくお願いします。

出会った全ての皆様に感謝を

生物環境学専攻
地域資源環境学講座
砂防・森林水文学研究室修士課程２年
和田　大祐

学部生として４年、院生として２年間、この鹿児島大学で過ごし、二つのことを学びました。

一つは、もちろん専門的な知識。そしてもう一つは“人とのつながりの大切さ”です。

鹿児島大学に入学してから６年間、いろんな方と出会いました。学科やサークル、アルバイト、研究室、調査で泊まった旅館などのさまざまな場所で、本当にくだらないことから真剣に将来のことまで語り合える友人や、自分の全く知らない世界を見せてくれた先輩、成長する過程が楽しみな後輩、厳しく指導されることもあれば、優しく励ましても頂いた研究室の先生方、老若男女色々な方々と出会い、挫折しそうなときにも支えられて過ごしてきました。

修士課程１年生の頃、就活でうまくいかず、自分自身に自信が持てなかった時も、研究室のつながりでお知り合いになれた先輩方とお酒を交わしながら励まして頂き、お陰様でその後の面接で自信が持てるようになり、内定を頂くこともできました。また、音楽サークルの先輩からは出会ったことのない音楽を教えてもらうだけでなく、人生観についてのアドバイスも頂き、自分の視野が広がりました。もちろん良いことばかりではなく、人と考え方が合わず対立してしまったこともありましたが、そのおかげで別の視点から考える機会を得ることが出来ました。

私がこの６年間で知り合った全ての方々とのつながりは本当に人生の宝です。

これから社会人として社会に出ていきますが、これから出会う人ともつながりを大事にし、どんな壁にぶつかっても乗り越えられていけるよう過ごしていきます。これまでお世話をしていただいたすべての皆様に感謝申し上げます。

そして最後に、これまで私が学生として過ごせるよう支え続けてくれた母に対し、これからは社会人として最大の感謝の気持ちを込めて恩返しをしていきたいと思います。

学生生活

獣医学科
臨床獣医学講座
外科学分野６年
天方　聡志

僕が鹿児島に来てもうすぐ６年になります。鹿児島で暮らし始めてびっくりしたことは「灰袋って変なもん配るなぁ」でした。今では灰袋のありがたみをひしひしと感じることができるくらい鹿児島に馴染みました。

入学するまで獣医学科がどんな雰囲気なのかはほとんど知りませんでした。学生は学科全体で180名ほどしかいないということもあり、非常に先輩後輩の仲が良く、喋ったことがなくても大体の人の顔は見覚えがあるということが一つの特徴だと思います。

特に最上級生となった今では学校外で「お疲れ様です」と声をかけてくれる後輩もおり、嬉しい反面、外で悪いことがあんまりできなくなりました。

学生生活は、３年生までは獣医学の基礎的なことを学び、４年生からは研究室に所属して臨床的なことを中心に学びました。３年生までは比較的時間に余裕があったので、バイトやサークル活動に勤しんでいました。４年生からは外科学分野の研究室に所属したこともあり、時間的な余裕はなくなりましたが、犬・猫・馬・牛などの外科手術を間近で見ることができたので非常に貴重な経験になったと思います。

卒後は鹿児島を離れることになりましたが、毎日桜島の灰を気にすることもなくなるのかと思うと少し寂しいです。これからは鹿児島大学で学んできた様々なことを活かして社会に貢献していきたいです。お世話になった先生方、先輩、後輩、そして同輩の皆様、本当にありがとうございました。

恩師・同窓のお慶び並びに訃報

先生の退職･新任･昇任

【農学部】

【定年退職】

八木　史郎　平成25年３月31日付
（生物資源化学科　生命機能化学講座　教授）

菅沼　俊彦　平成25年３月31日付
（生物資源化学科　生命機能化学講座　教授）

松尾　友明　平成25年３月31日付
（生物資源化学科　食糧生産化学講座　教授）

鮫島　吉廣　平成25年３月31日付
（附属焼酎・発酵学教育研究センター　教授）

米田　　健　平成25年３月31日付
（生物環境学科　森林管理学講座　教授）

望月　博昭　平成25年３月31日付
（生物環境学科　環境システム学講座　准教授）

【辞職】

伊藤　　清　平成24年12月31日付
（附属焼酎・発酵学教育研究センター　教授）

【新任】

吉崎由美子　平成24年４月１日付
附属焼酎・発酵学教育研究センター　助教

鵜川　　信　平成24年８月１日付
生物環境学科　森林管理学講座　准教授

芝山　道郎　平成24年８月１日付
生物環境学科　環境システム学講座　教授

【昇任】

下桐　　猛　平成24年４月１日付
（生物生産学科　家畜生産学講座　准教授）

橋本　文雄　平成25年２月１日付
（生物生産学科　園芸生産学講座　教授）

寺岡　行雄　平成25年２月１日付
（生物環境学科　森林管理学講座　教授）

地頭薗　隆　平成25年２月１日付
（生物環境学科　地域資源環境学講座　教授）

【共同獣医学部】

【定年退職】

岡本　嘉六　平成25年３月31日付
（附属越境性動物疾病制御研究センター　教授）

【辞職】

小島　敏之　平成24年３月31日付
（獣医学科　臨床獣医学講座　教授）

【新任】

望月　雅美　平成24年４月１日付
獣医学科　病態予防獣医学講座　教授

小澤　　真　平成24年４月１日付
獣医学科　病態予防獣医学講座　准教授

安藤　貴朗　平成24年４月１日付
獣医学科　臨床獣医学講座　准教授

野口　倫子　平成24年４月１日付
獣医学科　臨床獣医学講座　助教

【昇任】

窪田　　力　平成24年４月１日付
（獣医学科　臨床獣医学講座　教授）

物故者名簿

謹んで哀悼の意を表します

故人氏名	科･卒年	死亡年月日	ご遺族の住所およびご遺族名	
大塚　閏一	旧賛助	Ｈ．２４．９．３	鹿児島市西伊敷６－22－12	夫人　みどり
伊東　洋子	旧賛助	Ｈ．２３．	鹿児島市鴨池１－２－３	子息　昌介
春口　勝彌	Ａ.Ｔ．15	Ｈ．２４．３．５	宮崎市高千穂通２－６－23　サーパス宮崎駅前609	子息　寅雄
黒田　茂俊	Ａ.Ｓ．４		兵庫県姫路市辻井５－13－６	
神田　重妙	Ａ.Ｓ．６	Ｈ．２４．１．１２	京都市伏見区深草大亀谷内膳町８－２　留岡くみ子様方	令嬢　留岡くみ子
坂田　久二	Ａ.Ｓ．９	Ｈ．２４．１０．２４	神奈川県平塚市黒部丘29－19	令嬢
長　正雄	Ａ.Ｓ．10	Ｈ．２３．９．	埼玉県蓮田市江ケ崎1537－５	夫人
古賀　二郎	Ａ.Ｓ．14	Ｈ．２０．	長崎県大村市久原１－116－13	令嬢　河合秀子
三方　義郎	Ａ.Ｓ．16	Ｈ．２４．２．１５	福岡県筑紫郡那珂川町片縄７－７	夫人　美智恵
中馬　克己	Ａ.Ｓ．16		鹿児島市真砂本町62－６－706	
野田　昌治	Ａ.Ｓ．17	Ｈ．２３．１２．２４	長崎県諫早市御手水町976－２	
吉田　正人	Ａ.Ｓ．17	Ｈ．２４．１．３１	佐賀県唐津市東城内６－43	子息　幸雄
平川　秋次	Ａ.Ｓ．19	Ｈ．２３．１２．１３	熊本市健軍４－８－50	夫人　朝子
高野　昭久	Ａ.Ｓ．23		鹿児島市紫原１－12－７	
西田　三郎	Ａ.Ｓ．23	Ｈ．２２．６．	東京都葛飾区東四つ木１－18－13	
関　道生	Ａ.Ｓ．23	Ｈ．２３．１０．	佐賀県小城市小城町北小路4040－１	
谷口　巳三郎	Ａ.Ｓ．23	Ｈ．２３．１２．３１	タイ	夫人　恭子
中原　尚徳	Ａ.Ｓ．23	Ｈ．２４．１．２９	鹿児島県日置市伊集院町妙円寺１－63－８	
山本　勉	Ａ.Ｓ．23	Ｈ．１６	熊本市戸島町3069－５	

河野　通昭	A.S. 25	H. 24. 4. 2	鹿児島県垂水市田神274	夫人　順子
近藤　雄次	A.S. 25	H. 23. 5. 25	福岡市南区大平寺１－35－６	夫人　多嘉子
下園　克巳	A.S. 25	H. 25. 1. 29	鹿児島市田上１－29－13	夫人　妙
遠江　大	A.S. 26	H. 24. 2. 23	宮崎県都城市都原町3454－５	夫人　初枝
餅井田　輝	A.S. 26	H. 23. 3. 26	名古屋市昭和区塩付通３－１－５　サンマンション御器所1001	夫人　フクエ
新山　茂人	A.S. 28	H. 24. 12. 27	鹿児島市東俣町3833－42	夫人　幸子
本田　豊代	A.S. 28	H. 24. 5. 17	長崎県雲仙市瑞穂町伊福乙1060	
下野　重久	A.S. 29	H. 19. 4. 30	鹿児島市下伊敷３－９－26	夫人　祐子
北方　節夫	A.S. 30	H. 23. 4. 28	福岡市早良区弥生１－２－13－406	夫人
住田　隼人	A.S. 30	H. 24. 5.	鹿児島市新屋敷町16－71	
萩原　茂	A.S. 30	H. 24. 9. 25	鹿児島県姶良市脇元456－１	夫人　厚子
菊永　光孝	A.S. 31	H. 23. 5. 27	鹿児島市吉野町5956－87	夫人　頼子
村中　彰	A.S. 40			
川野　通也	A.S. 42	H. 11.		
大神　薫	F.S. 10		福岡市城南区松山２－31－13	
大窪　文利	F.S. 14	H. 24. 3. 23	愛知県知多市南巽が丘２－113	子息
上田　實	F.S. 16	H. 24. 1.	東京都小平市学園西町２－15－16	
寺本　成利	F.S. 20	H. 23. 10. 13	熊本市徳王町333－１	令嬢
中江　勝春	F.S. 20	H. 23. 1. 26	長崎市西山３－８－８	
池田　一雄	F.S. 24		福岡県太宰府市三条２－20－17	
佐田　亘	F.S. 25	H. 23. 3. 24	鹿児島市東谷山４－32－13	夫人　和子
清水　民敬	F.S. 38	H. 24. 4. 13	奈良県生駒郡斑鳩町龍田北５－11－29	夫人　祐子
石神　琢磨	F.S. 39			
長井　英憲	F.S. 45	H. 23. 10. 10	奈良県大和郡山市矢田町4686	夫人
田村　丈夫	S.S. 15		福岡県北九州市門司区白野江139	
芳賀　昭世	S.S. 18	H. 23. 5. 16	千葉県八街市山田台644	夫人　美代子
三原　季経	S.S. 18		鹿児島市下荒田１－29－26	夫人　利子
茶木　信夫	S.S. 20	H. 24. 5.	宮崎県都城市上水流町2273－２	
小林　甲喜	S.S. 23	H. 23. 10. 6	岡山市中区門田本町３－５－12	夫人
原口　一男	S.S. 23	H. 22. 11. 3	佐賀市本庄町本庄249－５	
田中　一人	S.S. 25	H. 21.	福岡県宗像市ひかりケ丘３－８－20	夫人　知恵子
久永　利春	S.S. 25		鹿児島県薩摩川内市東大小路町1274	
宮下　健二郎	S.S. 26	H. 19. 12. 4	鹿児島県姶良市加治木町反土2138－２	夫人
小城　貞夫	S.S. 31	H. 24. 4. 1	岡山市東区浅越310－２	夫人
丸山　宗人	S.S. 31	H. 24. 12. 24	アメリカ　カルフォルニア州　サクラメント	
玉井　睦郎	S.S. 35	H. 24. 6. 22	鹿児島市西陵１－22－16	
坂上　行雄	C.S. 18	H. 19.	東京都多摩市唐木田１－18－８	夫人
小鷹　正之	C.S. 20	H. 23. 10. 1	東京都国分寺市光町２－20－26	夫人
岸本　菊男	C.S. 22		千葉県松戸市河原塚423－１	
内山　政太郎	C.S. 24		山口県下関市員光町３－２－12	
藤山　一彦	C.S. 41			
川路　博志	C.S. 52			
田代　哲之	V.S. 16	H. 24. 4. 29	鹿児島市田上７－12－13	夫人　敦子
清野　廣之	V.S. 17	H. 20.	長崎市西北町44－１－218	令嬢
国ノ十　六雄	V.S. 18	H. 25. 1. 26	鹿児島県姶良市東餅田183－５	夫人　律子
瑞穂　當	V.S. 18	H. 22. 12.	千葉市中央区本町３－３－７	令嬢
坂本　徹丸	V.S. 19	H. 14.	熊本県宇城市小川町北小野867－１	夫人
犬童　忠治	V.S. 20	H. 18. 10.	鹿児島県薩摩郡さつま町求名3355－１	夫人　廉子
黒江　豊	V.S. 20	H. 24. 4. 13	鹿児島県日置市伊集院町下谷口1482－１	令嬢　種子島素子
中江　靖長	V.S. 22	H. 23. 11.	鹿児島県姶良市加治木町新生町400	令嬢
岩下　得蔵	V.S. 22	H. 20. 11. 8	鹿児島県出水郡長島町鷹巣74	夫人
徳持　義廣	V.S. 23	H. 19. 9. 23	鹿児島県霧島市国分清水１－９－19	夫人
福田　輝男	V.S. 23	H. 22. 3. 12	熊本市山室１－９－２	夫人　伊豆子
東　正孝	V.S. 23	H. 22. 9. 20	鹿児島市東坂元２－25－10	夫人　久美子
原口　寅雄	V.S. 31	H. 23. 9. 2	佐賀県伊万里市松浦町桃川3638－２	夫人　悦子
中園　吉宣	V.S. 44	H. 14. 9. 5	鹿児島市鴨池新町29－３－23	夫人　比早子
相川　邦彦	V.S. 45	H. 16. 8. 8		
本田　邦正	V.S. 50	H. 24. 12. 5	長崎県佐世保市山手町566	夫人　晃子
塩澤　辰紀	V.S. 52	H. 21. 8. 10	鹿児島市桜ケ丘３－22－６	夫人
桑原　秀敏	G.S. 32			
宝満　利行	G.S. 33	H. 21. 11.	大分県豊後高田市高田2121－５	令嬢
山口　努	Z.S. 42		鹿児島県曽於市末吉町南之郷221－14	
山村　隆治	Z.S. 46	H. 24. 3. 14	熊本県上益城郡益城町安永731－３	

本部便り

会員名簿の発刊

本会の会員名簿は従来３年ごとに改訂版を発行して参りました。次回発行予定になっていた平成21年は、丁度農学部開学100周年の節目の年に当たり、記念事業実施のために会員名簿の発行が見送られておりました。

６年振りに会員各位のご協力によりまして充実した内容の

平成２４年改訂版「あらた同窓会会員名簿」

を発刊いたしました。

今回は、会員名簿の発刊の契約を名簿出版業者と結び、先の開学100周年記念事業で更新されました個人情報を基礎にして、さらに正確な情報を会員に提供するために、各種の確認作業を行って得られた情報を掲載いたしました。

会員名簿は予約販売といたしましたが予約部数が少なく、残部を本会が引き取りますので、本会は相当数の在庫を抱えております。同窓会活動に有効にご利用ください。

購入希望者は事務局へご一報ください。一部５千円（送料込み）。

事業および会計に関する報告

１．総会

平成24年度本部総会は、平成24年11月23日、15：00～鹿児島市上荒田町のジェイドガーデンパレスにおいて開催されました。

総会に先立って開催された恒例の講演会では、鹿児島大学農学部の橋本文雄教授が「新花色の作出」について講演されました。

総会は、宇田川義夫あらた同窓会副会長（C29）ならびに冨永茂人農学部長（H48）の挨拶に続いて、内　國弘議長（農33）のもとで下記の議案について審議が行われました。

まず、平成23年度事業報告（案）ならびに平成23年度一般会計および名簿特別会計の収支決算（案）について、事務局の林満常任副会長から提案説明があり、続いて吉山安夫監事から平成23年度会計監査報告があり、一括審議の結果、いずれの議案も異議なく承認されました。

つぎに、24年度事業計画（案）ならびに平成24年度予算（案）ついて事務局から提案説明があり、一括審議の結果、両案は異議なく承認されました。

さらに、役員選任に関して、事務局の林常任副会長から古川良英会長が家庭の事情で会長辞退に至った経緯ならびに評議員会が前田芳實氏（畜42）を新会長に推薦するに至った経緯の説明があり、審議の結果、前田芳實氏（蓄42）が新会長に選任されました。

２．評議員会

平成24年度評議員会は、平成24年11月14日、17：30～農学部共通棟会議室で開催されました。

宇田川義夫副会長ならびに冨永茂人農学部長の挨拶に引き続き、宇田川議長のもとで主に総会に付議する議案が審議されました。

議案（１）平成23年度事業報告（案）、（２）平成23年度の一般会計および名簿特別会計の決算（案）、ならびに（３）会計監査報告について、それぞれの議案について事務局と監事から説明がありました。その中で、一般会計の決算案において収入に基金特別会計から60万円が繰入れられた件に関して事務局から、「本会の会費収入には近年漸減傾向が認められており、23年度会費収入の決算額は当初予算額を数十万円ほど下回り、年度途中で資金不足が生じると予測されたために、会長・副会長に相談のうえ基金特別会計から繰入を行った」旨の説明あり、質疑の結果、今後も会費納付率の向上を目指し努力することを付帯条件として決算案は承認されました。

議案（４）平成24年度の事業計画（案）、一般会計予算（案）ならびに名簿特別会計予算（案）について、事務局から提案説明があり、審議の結果、３議案は異議なく承認されました。

議案（５）同窓会長の人事について、平成２４年７月に古川良英会長から家庭の事情により会長職を辞任したい旨の申し出がありました。事務局では同年９月以降、後任人事について役員の方々に相談するとともに、宇田川義夫副会長および堀切俊幸副会長と今後の対応と人選について協議を行いました。それらの協議の中で、多数の方々から会長適任者として本学理事の前田芳實氏（畜産学科42年卒）が推薦されている旨の報告があり、協議の結果、全会一致で前田芳實氏を会長候補として総会に推薦することが了承されました。

３．常任幹事会および幹事会

幹事会は、同窓会報の発行をはじめ、会員名簿の発行や講演会の開催、総会および評議員会の議案書の作成など､すべての事業の企画･実施に関する協議を行いました。

４．会計監査

平成23年度の会計監査は、平成24年11月２日に下川悦郎（林44)、吉山安夫（蚕40）および三宅康郎（農43）の３監事によって実施され、事業並びに会計事務が適切に処理されている旨の監査報告書が会長宛に提出されました。

５．会報および卒業生名簿の発行

春季会報は平成24年３月25日に発行され、５年間会費納付の条件を満たした会員、終身会員、および80歳以上の会費納付免除会員に送付されました。学生向け秋季会報は、平成23年11月23日に発行され、学生会員に配布されるとともに、支部総会の資料として会員に配布されました。

卒業生名簿は平成24年３月に発行され、卒業生はじめ関係者に配布しました。また、平成24年３月卒業者には平成18年版あらた同窓会会員名簿の［ＣＤ版会員名簿］を配布しました。

６．学生向け講演会

本会と農学部が共催する学生向け講演会は、平成24年７月４日、農学部共通棟の101号室で開催されました。上林房行信氏（農工51年卒、鹿児島市建設局長）を講師に招き、鹿児島市の都市計画―まちづくりの現場から―について講演をお願いしました（講演要旨は24年11月発行の学生向け秋季号に掲載)。

７．支部会員との交流

平成23年度の交流は、東海あらた会、近畿・兵庫あらた会、佐賀あらた会、熊本あらた会、鹿児島あらた会、および鹿児島市役所部会に、本部から役員が派遣され、農学部と同窓会の近況等が報告されました。

あらた同窓会役員名簿

名誉会長	赤崎　義則（農23）
顧　　問	冨永　茂人（園48）
会　　長	前田　芳實（畜42）
副会長	宇田川義夫（化29）　浮津　護（林38） 堀切　俊幸（農39）　林　満（常任・蚕35）
監　　事	吉山　安夫（蚕40）　三宅　康郎（農43） 下川　悦郎（林44）
常任幹事	
庶務担当	岩井　久（農55　鹿児島支部）
会計担当	田浦　悟（農59）
会報担当	樗木　直也（化58）　遠城　道雄（院農59）
	寺本　行芳（環平７）
名簿担当	南　雄二（化59）
広報担当	平　瑞樹（農工62）　末吉　武志（農工平５）
幹　　事	坂井　教郎（賛助）　山本　雅史（賛助）
	岡　勝（林55）　大塚　彰（畜平１）
	窪田　力（獣平２）　髙山　耕二（院生平８）
	三浦　直樹（獣平９）
評議員	内　國弘（農33）　脇　秀一郎（農41）
	松本　秀一（農44）　東　孝行（農46）
	溝添　俊樹（林41）　大坪　弘幸（林45）
	永田　鉄山（蚕30）　大岩　勝徳（蚕36）
	藤嶋　哲男（化31）　宮内　信文（化35）
	稲永　醇二（化42）　堀之内達男（獣33）
	松元　計士（獣36）　新納　時英（獣44）
	高橋　亘（獣46）　武　洪（総農35）
	中村　博大（畜43）　上林房行信（農工51）
	東久保研一（園48）　大久保祐司（生平６）
	石橋松二郎（資平６）
（役職指定）	各地域支部長 農学部副学部長および学科長 鹿児島支部幹事

平成23年度一般会計収支決算書

収入額　5,389,815円　　支出額　5,292,599円
繰越金　　97,216円

収入の部

項　　目	予算額	決算額	差　異	
会費	5,100,000	4,352,000	748,000	
年会費	2,600,000	1,966,000	634,000	延べ 983名
入会金	2,100,000	2,121,000	△21,000	新正会員　7名（21,000） 新入生　181名（1,810,000） 在校生　29名（290,000）
懇親会費	400,000	265,000	135,000	53名
雑収入	20,000	44,278	△24,278	100周年記念誌代 10,000 寄付 34,000 利子等 278
繰越金	388,373	388,373	0	
繰入金	20,000	605,164	△585,164	基金より 600,000 基金利子 5,164
合計	5,528,373	5,389,815	138,558	

支出の部

項　　目	予算額	決算額	差　異	
会議費	500,000	371,546	128,454	
総会費	400,000	253,000	147,000	懇親会費
役員会費	100,000	118,546	△18,546	幹事会 監事会 評議員会
事業費	2,110,000	2,186,555	△76,555	
印刷費	800,000	912,450	△112,450	学生向け会報 315,000 春季号会報 542,850 封筒・会則 42,000 罫紙 12,600
卒業祝賀会費	300,000	300,000	0	
支部交付金	200,000	195,600	4,400	鹿児島、近畿、兵庫、熊本、広島
旅費	150,000	188,680	△38,680	佐賀、熊本、近畿・兵庫、宮崎
通信運搬費	500,000	439,825	60,175	会報送料、振込手数料
講演会費	60,000	50,000	10,000	総会講演会、学生向け講演会
功労者表彰積立金	100,000	100,000	0	2014年実施積立　H22･23年度分
事務局費	2,080,000	1,957,692	122,308	
役員報酬	880,000	880,000	0	H.22年度分 360,000 H.23年度分 520,000
賃金	910,000	795,960	114,040	給料
備品費	0	12,500	△12,500	電話機代
消耗品費	30,000	20,483	9,517	事務用品代等
光熱水費	50,000	52,275	△2,275	電気及び上下水道代
通信運搬費	100,000	125,069	△25,069	切手代等、電話代、インターネット接続料
賃借料	60,000	54,495	5,505	H.23年度分
慶弔費	50,000	16,910	33,090	弔電代等
会館維持費	0	0	0	
全学同窓会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	200,000	126,806	73,194	全学同窓会連合会懇親会費負担金 56,000 支部みやげ 47,947 複写機修理代等 22,859
繰出金	400,000	400,000	0	名簿特別会計へ
予備費	138,373	150,000	△11,627	奨学寄附金 100,000 藩校サミット協賛金 50,000
合計	5,528,373	5,292,599	235,774	

平成23年度功労者表彰費積立金決算書

収入	23年度の積立金（２ヶ年分）	100,000
	計	100,000

平成23年度同窓会名簿特別会計収支決算書

収入額　1,559,248円　　支出額　210,000円
繰越金　1,349,248円

収入の部

項　　目	予算額	決算額	差　異	
名簿代	10,000	0	10,000	
雑収入	200	10,092	△8,092	寄付金 10,000 利子 92
繰越金	1,149,156	1,149,156	0	
繰入金	400,000	400,000	0	一般会計より
合計	1,559,356	1,559,248	108	

支出の部

項　　目	予算額	決算額	差　異	
名簿作成費	60,000	52,500	7,500	
名簿購入費	0	0	0	
印刷費	60,000	52,500	7,500	卒業生名簿 500部
通信運搬費	1,000	0	1,000	
個人情報業務委託費	157,500	157,500	0	H.24年度分 157,500
予備費	1,340,856	0	1,340,856	
合計	1,559,356	210,000	1,349,356	

あらた同窓会資産表

平成24年９月末日現在

基金特別会計

定期預金	鹿児島銀行	10,000,000円
定期預金	南日本銀行	5,000,000円
普通預金	鹿児島銀行	400,108円
	合計	15,400,108円

一般会計

普通貯金	郵便局	97,216円

名簿特別会計

普通貯金	郵便局	1,349,248円

総　計	16,846,572円

監 査 報 告 書

あらた同窓会平成23年度事業実績並びに会計について監査しましたが、諸帳簿、証拠書類、預金通帳等はよく整理され、事業運営並びに会計事務は適切に処理されているものと認めます。

平成24年11月２日

あらた同窓会
監事　下川 悦郎
監事　三宅 康郎
監事　吉山 安夫

あらた同窓会
会長　古　川　良　英　殿

平成24年度一般会計予算書

収入額　5,027,216円　　支出額　5,027,216円

収入の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
会費	4,900,000	4,352,000	548,000	
年会費	2,400,000	1,966,000	434,000	1200名
入会金	2,100,000	2,121,000	△21,000	新入生　10,000×210名
懇親会費	400,000	265,000	135,000	5000円×80名
雑収入	20,000	44,278	△24,278	利子等
繰越金	97,216	388,373	△291,157	
繰入金	10,000	605,164	△595,164	基金利子
合計	5,027,216	5,389,815	△362,599	

支出の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
会議費	500,000	371,546	128,454	
総会費	400,000	253,000	147,000	80名
役員会費	100,000	118,546	△18,546	幹事会、監事会、評議員会
事業費	2,000,000	2,186,555	△186,555	
印刷費	800,000	912,450	△112,450	会報
卒業祝賀会費	300,000	300,000	0	
支部交付金	200,000	195,600	4,400	各支部へ
旅費	150,000	188,680	△38,680	支部総会出席等
通信運搬費	450,000	439,825	10,175	会報送付、振込手数料等
講演会費	50,000	50,000	0	講師謝礼等
功労者表彰積立金	50,000	100,000	△50,000	2014年実施積立
事務局費	1,610,000	1,937,532	△327,532	
役員報酬	520,000	880,000	△360,000	
賃金	800,000	795,960	4,040	給料等
備品費	0	12,500	△12,500	
消耗品費	30,000	20,483	9,517	事務用品代等
光熱水費	50,000	52,275	△2,275	電気代、上下水道代等
通信運搬費	120,000	104,909	15,091	切手等、インターネット接続料
賃借料	60,000	54,495	5,505	会館建物使用料
慶弔費	30,000	16,910	13,090	祝電、弔電代等
会館維持費	0	0	0	
全学同窓会分担金	100,000	100,000	0	
雑費	100,000	146,966	△46,966	
繰出金	400,000	400,000	0	名簿特別会計へ 400,000
予備費	317,216	150,000	167,216	
合計	5,027,216	5,292,599	△265,383	

平成24年度功労者表彰費積立金予算書

前年度までの積立金	100,000
本年度の積立金	50,000
計	150,000

平成24年度同窓会名簿特別会計予算書

収入額　1,799,448円　　支出額　1,799,448円

収入の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
名簿代	50,000	0	50,000	10冊
雑収入	200	10,092	△9,892	利子
繰越金	1,349,248	1,149,156	200,092	
繰入金	400,000	400,000	0	一般会計より
合計	1,799,448	1,559,248	240,200	

支出の部

項　目	本年度予算額	前年度決算額	差　異	
名簿作成費	1,550,000	52,500	1,497,500	
名簿購入費	1,500,000	0	1,500,000	同窓会名簿
印刷費	50,000	52,500	△2,500	卒業生名簿 500部
通信運搬費	5,000	0	5,000	
個人情報業務委託費	157,500	157,500	0	H.25年度分
予備費	86,948	0	86,948	
合計	1,799,448	210,000	1,589,448	

鹿児島大学農学部あらた同窓会会則

第１章　総　則

（名称）

第１条　本会は、鹿児島大学農学部あらた同窓会（通称：あらた同窓会）と称する。

（目的）

第２条　本会は、会員相互の交流と親睦を図るとともに、農学部の発展に寄与することを目的とする。

（事業）

第３条　本会は、前条の目的を達成するために次に掲げる事業を行う。

(1) 会報及び会員名簿の発行
(2) 農学部との連携及び協力
(3) その他必要と認めた事項

（支部）

第４条　本会は、支部を必要な地に置くことができる。

第２章　会　員

（会員）

第５条　本会は、次に掲げる正会員、学生会員及び賛助会員をもって組織する。

正会員
　鹿児島高等農林学校卒業者
　鹿児島農林専門学校卒業者
　鹿児島大学農学部卒業者
　鹿児島大学大学院農学研究科修了者
学生会員
　農学部及び大学院農学研究科に在籍する学生
賛助会員
　現賛助会員（現職教員）
　旧賛助会員（退職教員）

２　会員は、住所等に移動が生じた場合、その都度事務局に連絡するものとする。

第３章　役　員　等

（役員）

第６条　本会に次の役員を置く。

(1) 会長	１名
(2) 常任副会長	１名
(3) 副会長	３名
(4) 評議員	若干名
(5) 監事	３名
(6) 常任幹事及び幹事	若干名
(7) その他会長が認めた者	

（役員の選任）

第７条　会長、常任副会長、副会長、評議員及び監事は、総会において選任する。

２　評議員は、前項の他に各地域支部支部長、農学部副学部長及び学科長、並びに鹿児島支部幹事をもってこの任に当てる。

３　幹事は、農学部の各講座から推薦された者をもってこの任に当て、その中から庶務、会計、会報および名簿担当の常任幹事を互選する。

（役員の任務）

第８条　会長は本会を代表して会務を総理する。

２　常任副会長は会務の執行を総括し、事務局を統括する。

３　副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代行する。

４　評議員は、総会及び評議員会の構成員として、会務の執行上重要な事項を審議する。

５　監事は会計の執行状況の監査を行う。

６　常任幹事及び幹事は、幹事会の構成員として、本会の事業の企画・立案及び実施等に関する事項のついて協議を行う。

（役員の任期）

第９条　総会で選任された役員の任期は２年とし、再任を妨げない。ただし、役員に欠員を生じた場合の補欠の任期は前任者の残任期間とする。

（名誉会長及び顧問）

第10条　本会に名誉会長及び顧問を置くことができる。

２　名誉会長は会長が委嘱する。

３　農学部長は本会の顧問とする。

４　名誉会長及び顧問は、会議に出席し、意見を述べることができる。

第４章　会　議

（会議）

第11条　本会の会議は、総会、評議員会及び幹事会とする。

（総会）

第12条　総会は、第５条第１項及び第10条に掲げる者をもって組織する。

２　総会は、次に掲げる事項を審議する。

(1) 役員の選任に関する事項
(2) 事業計画及び事業報告に関する事項
(3) 予算及び決算に関する事項
(4) 会則の改廃に関する事項
(5) その他会長が必要と認めた事項

３　総会は、会計年度開始から２ヶ月内に会長が招集する。

４　総会の議長は出席者の中から選出する。

５　議事は出席者の過半数で決するが、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（臨時総会）

第13条　臨時総会は、会長が必要と認める場合に開催できる。

２　臨時総会の議長の選出並びに議決は前条の規定によるものとする。

（評議員会）

第14条　評議員会は、会長、常任副会長、副会長及び評議員をもって組織する。

２　評議員会は、次に掲げる事項を審議する。

(1) 総会に付議すべき事項
(2) 本会の運営における重要な業務の執行に関する事項

（幹事会）

第15条　幹事会は、常任副会長、常任幹事及び幹事をもって組織する。

２　幹事会は、次に掲げる事項を協議する。

(1) 総会及び評議員会に付議する議案書の作成
(2) 本会が行う業務の具体的執行計画等

第５章　会　計

（経費）

第16条　本会の経費は、正会員及び現賛助会員の会費、学生会員の入会金及び会費、寄付金等をもって充てる。

２　正会員及び現賛助会員は、年会費として2,000円を納付する。

３　学生会員は、入会金及び在学中の会費として、入学時に、10,000円を納付する。

４　年齢が満80歳に達した会員は会費納付を免除する。

（会計年度）

第17条　本会の会計年度は、10月１日から翌年９月30日までとする。

（監査）

第18条　監事は、会計年度ごとの事業実績並びに会計の執行について監査を行い、その結果を会長に報告する。

第６章　事　務　局　等

第19条　本会の事務を処理するために事務局を置く。

２　事務局は鹿児島大学農学部あらた会館内に置く。

（雑則）

第20条　この会則に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、別に定める。

附　則

本会則は、昭和28年12月12日より施行する。
本会則は、昭和53年11月23日より改訂施行する。
本会則は、昭和60年11月23日より改訂施行する。
本会則は、昭和61年11月23日より改訂施行する。
本会則は、昭和62年11月23日より改訂施行する。
本会則は、平成12年11月23日より改訂施行する。
本会則は、平成23年11月23日より改訂施行する。

覚　書

１　過去に終身会費を納付した終身会員は年会費の納付を免除する。

２　あらた同窓会功労者表彰は、2009年を起点として、５年毎に行う。

編集後記

世間ではグローバルな人々が大学の秋入学（ということは秋卒業ということになるのでしょうか）を提唱し、それに向けた動きも具体化しているようです。しかし平凡な日本人である私には、少し肌寒い日があったり、桜が咲いて春到来を実感したりするこの季節が卒業と入学、別れと出会いにふさわしい季節だと感じます。

多くの卒業生、修了生の皆さんが農学部のキャンパスから巣立っていかれるのは毎年の事ですが、今年は多く、８名の先生方が定年退職などによりキャンパスを去られます。いわゆる「団塊の世代」の一員として、人生を歩んでこられた先生方です。日頃からいろいろとお付き合いのある方もおられれば、あまりお話ししたこともなかった方もおられると思います。同窓会報春季号に例年お寄せいただく退職される先生方の文章を読んで、改めてその先生の人生やお考えなどを知り、考えさせられることも多々あります。今回のあらた同窓会春季号も、退職される先生方のおかげで一層読みごたえのあるものになったと思います。ありがとうございました。

（文責　生物資源化学科　樗木直也）

鹿児島大学農学部
あ ら た 同 窓 会

〒890-0065
鹿児島市郡元一丁目 21－24
ＴＥＬ・ＦＡＸ　099（285）8537
e-mail　aratakai@mc2.seikyou.ne.jp
振　替　口　座　02010－2－876
事務局の業務日
月、水、金（10：00～16：00）
印　刷　㈱廣済堂
〒560－8567
大阪府豊中市蛍池西町２－２－１
ＴＥＬ：06（6855）9241

平成24年度農学部あらた同窓会講演会

農学部実験圃場と鹿児島市立病院建設風景